

令和3年度第1回座間市総合計画審議会 会議録

会議の名称	令和3年度第1回座間市総合計画審議会		
開催日時	令和4年1月31日(月) 14時00分～16時00分		
開催場所	座間市役所 5階 5-1会議室		
出席者	津軽石会長、長本副会長、湯浅委員、小池委員、窪委員、飛田委員、加藤委員、木口委員、星名委員、宗藤委員、清原委員、小坂委員、岡本委員		
事務局	大木企画財政部長兼企画政策課長、金子企画政策係長、佐藤主事		
会議の公開可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	0人
非公開又は一部公開とした理由	—		
議題	<報告事項>これまでの取組状況について		
資料の名称	資料1 座間市総合計画審議会規則 資料2 (仮称)第五次座間市総合計画策定方針 資料3 第五次座間市総合計画策定スケジュール 資料4 これまでの取組状況 追加資料 第五次座間市総合計画—ざま未来プラン—基本構想骨子案		
会議の結果			
議題	これまでの取組状況について共有後、第五次座間市総合計画策定に係る意見交換。		
議事の概要			
	別紙のとおり		

(会長)

それでは進行を務めさせていただきます。議題に移ります。報告事項として、これまでの取組状況について、事務局からの説明を求めます。

(事務局)

それでは、これまでの取組状況について、配付資料に沿って説明します。大変恐縮ですが、ここからは着座にて失礼いたします。なお、直前でしたが、事前に資料を送付させていただきましたので、会議の効率化を図るため、本日は簡潔な説明とさせていただきますことを御了承ください。

はじめに、資料1「座間市総合計画審議会規則」を御覧ください。本審議会について定めた規則です。第2条では、「審議会は、市長の諮問に応じ、本市の基本構想及び基本計画の策定に関する事項を調査審議し、その結果を報告し、又は意見を建議する。」と記載があり、ここが皆様の役割となります。

次に、資料2「(仮称)第五次座間市総合計画策定方針」を御覧ください。これは、令和3年2月に公表したものであり、1ページでは、前総合計画からの経緯や現在の社会情勢をもとに策定の趣旨を記載しています。2ページでは、市民との協働、分かりやすい計画を基本的な考え方として、それをもとに策定作業を進めています。3ページでは、次期総合計画の構成を、長期的な視点での基本構想と、中期的な事業計画である実施計画の2層構造としています。4ページには、本審議会についても記載していますように策定体制を定めています。5ページには、大まかなスケジュールを記載し、その後見直したものを6ページに記載しています。

詳細なスケジュールは別にまとめていますので、資料3「第五次座間市総合計画策定スケジュール」を御覧ください。ここには、先ほど説明した策定方針の公表から市議会での議案採決までのスケジュールを示し、令和4年1月までは取組結果、それ以降は今後の予定を記載しています。中央部の総合計画審議会の今後のスケジュールについて説明させていただきます。審議会は、本日第1回として皆様を委嘱させていただきました。今年度は3月に協議として開催を予定しています。ここでは、骨子案に対する市民意見などを報告させていただく予定です。また、5月には素案に対する協議を行い、7月頃に基本構想の原案を市長から諮問させていただく予定です。この諮問の後、皆様に御審議いただき、10月に答申をいただく予定としています。原案の諮問までは、報告事項に関する意見交換により議論を深め、諮問後は本格的に御審議いただきたいと考えていますので、よろしく申し上げます。スケジュールは以上です。

次に、資料4「これまでの取組状況」を御覧ください。「1市議会」として、令和3年第3回定例会で第五次座間市総合計画特別委員会が設置されました。「2市民参加」として、本市のまちづくりの方向性を示す骨子案を作成するため、アンケート、懇談会、ポスターセッションなど、市民の皆様の御意見を伺う取組を行ってきました。(1)これからの座間市のまちづくりに関するアンケート調査は、当初の計画では、今年度早々に地区別懇談会を実施する予定でしたが、コロナ禍

の影響で実施できる状況になかったことから、市民の意見を聴く手段としてLINEによるアンケート調査を実施したものです。3週間程度の期間で回答数が4,345票と本市の予想を超える回収となりました。30代以下で500弱の回答をいただき、若い世代の意見も伺うことができました。将来残したいもの、将来のまちの姿、将来イメージのキーワードを簡単に記載していますが、多くの市民は、住みやすさを求めているということが分かりました。(2)座間市「未来デザイン会議」は、昨年8月7日、29日の2日にわたって開催しました。この中では、本市の魅力・課題から未来について対話し、将来像や課題・解決策について出された意見をもとに、「活力・にぎわい」、「子育て・教育」、「協働・ひと」、「都市空間・生活環境」、「公園・緑地・水」、「行政サービス」をテーマとして分類し、テーマごとにグループに分かれて更に対話を重ね、最後に各グループから本市の将来のキーワードなどを提案していただきました。また、(3)から(5)までは、市内で活動される団体、地域の皆様と市長との意見交換をするために開催しました各種懇談会です。懇談会で挙げられた意見は、大別すると、将来について、現在の課題について、計画策定についての意見に分けられ、その内容も多岐にわたったものでした。特に地区別懇談会やオンライン懇談会では現在の課題に対する意見が多かったです。(6)ポスターセッションは、イオンモール座間で実施しました。ポスターセッションでは、総合計画の認知度に関するアンケートも行いました。総合計画を知らなかった方が87.5%であり、まず、総合計画を知っていただくための工夫が必要だと感じました。また、今回のポスターセッションの参加者は、50代以下が8割を占めています。年齢抽出のアンケートを実施すれば必要な情報は得られるかもしれませんが、人の動きがある中での参加型イベントで、普段なかなか声が聴けない世代の声を聴けたことは成果と言えると考えています。また、一言メッセージでは、LINEのアンケートと同様に、子育て、教育に関わる内容が多くありました。(7)動画配信による意見募集は、懇談会と同じ説明内容を動画配信で行ったものです。件数は14件と多くはありませんでしたが、多様な御意見をいただきました。これまで市民の皆様から様々な手法で御意見を伺いましたが、本市の将来像として、子育て、子どもなど、子どもに優しいまちを望む声が多く挙がりました。これからの本市のまちづくりには、「子育て、教育」というキーワードが大変重要であると認識しています。「3庁内検討組織」は、市長、副市長、部局室長で構成する策定本部、課長、係長級の職員で構成する検討委員会を設置し、第五次総合計画の策定作業を進めています。また、市長と若手職員との意見交換も行いました。

最後になりますが、本日追加資料として配布した「第五次座間市総合計画—ざま未来プラン—基本構想骨子案」を御覧ください。これは、アンケート、懇談会、ポスターセッションなど市民の皆様からいただいた御意見を踏まえながら作成したものです。本日13時に市ホームページで公表したばかりですので、御覧になった方はまだ少ないと思います。市民の総合計画に対する認知度などを踏まえ、市民にとって身近さ、分かりやすさを感じてもらうため、「ざま未来プラン」を第五次座間市総合計画の通称名として採用しました。3ページの人口推移から概要を説明いたします。本市の人口は、近年少しずつ増えています。特に、65歳以上の人口が増えています。

4ページの財政推移では、歳入については地方税の割合が低くなっていること、歳出については扶助費や物件費の割合が高くなった一方で、人件費や公債費の割合が低くなっていることを示しています。5ページから10ページまでは、社会情勢への対応として6項目を示しています。個別の説明は省略させていただきますが、いずれも大きなテーマですので、総合計画策定に当たって本市が踏まえておくべき項目であると捉えています。11ページには、第五次座間市総合計画で目指すまちの姿として、前総合計画の取組成果と課題、聴取した市民意見、社会情勢への対応等を踏まえ、「ひと・まちが輝き 未来へつなぐ」といたしました。また、12ページには、まちづくりの方向性として、七つの政策を打ち出しています。なお、本骨子案については、明日2月1日から3月3日までパブリックコメントを実施し、市民の皆様の御意見を伺います。

簡単ではありますが、事務局からの説明は以上です。

(会長)

ありがとうございました。ただいま事務局から、これまでの取組状況について、骨子案などについて説明がございました。ちょうど本日、骨子案が公表されたということでございます。本日は、第1回目の審議会ということでもありますので、事務局のこれまでの説明に対する質問があればいただきたいと思っておりますし、その他、率直な御感想であるとか、あるいは、それぞれのお立場からの、今これから考える未来のまちづくりなどについて、できればお一人ずつ順番に御発言をいただきたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

(委員)

異議なし。

(会長)

それでは、私は最後にいたしまして、座席順にお願いを申し上げたいと思います。では副会長、お願いいたします。

(副会長)

いま、資料を改めてゆっくり見させていただきながら、御説明をお伺いいたしました。ただ、子育て等色々な問題を抱えている訳でありますし、その中で色々と抽象的な言葉が多い中でありますけれども、この10年という一つの区切りの中で、第五次という計画の中で考えていく中で、私どもは年をとり、時も流れていく訳ですけれども、そういった中で、子育て等色々なものに関する「ものの考え方」とがあまりにもこう、また、いろいろな御意見とか、あまりにも抽象的過ぎて、何をどうされたいのかな、何を望んでらっしゃるのかなということが、逆にちょっと分かりづらいのかなという気もいたしました。必要なものであるとか、色々とまた御記入いただいたりとか、残したいものとか、姿とか、色々あるのですけれども、じゃあそれを守るために何をど

うしたら良いのかということに関して、またちょっとゆっくり考えてみる必要があるのかなと思いました。まあどちらにしましても、この貴重な御意見を頂戴した訳ですから、これを参考にまた皆様方と一緒に色々考察できれば幸いかと思っております。

(会長)

ありがとうございます。次の委員、お願いします。

(委員)

骨子案というのを今日拝見させていただきましたけれども、副会長の「抽象的」というお言葉がありましたけれども、骨子案の最後の所を見ると、ちょっと総花的かなという印象を受けました。骨子案だから仕方ない部分もあるのでしょうかけれども、もう少し具体的に何にフォーカスをしていくのかという所を決めていかないと、なかなか、行動計画まで落ちて行かないのではないかなと。抽象的なことを計画に落とすということは非常に難しい、それを実現することは更に難しいと思いますので、議論の中でもうちょっとフォーカスした所に落とし込む作業が必要ではないかなという印象を受けました。

(会長)

ありがとうございました。それでは次の委員、お願いします。

(委員)

今まで、第四次総合計画からずっと10年間やってきた訳ですけど、そこで見直して、その結果が出ているものについて、二つばかり意見があるのですが、よろしいでしょうか。

まず一つは、資料4のポスターセッションの次に書いてあるアンケートの結果、「総合計画を知っていましたか」に対して「知らなかった」が87%もあるってということに対してびっくりしています。第四次総合計画を10年間進めていて、この時になって知らなかったという方が87%いるってことは、ちょっと問題じゃないかなと思います。この、市民に知らしめる何か方法を、この審議会の中で最後に出てきたらありがたいと思います。

もう一つは、第四次総合計画の取組結果というのが出ていますけど、その取組結果によると、目標の達成度といいますか、92あった指標の中で達成できたのが17個しかなかった、中には、13の指標があったのに達成できたものが0で、それでこの取組結果の報告書の中では、その結果について、例えば「このうち、達成する指標はありませんでした」で言葉が終わっている、また「～で一つの指標が達成できました」とか、その他は「達成できませんでした」で終わってしまっているのですね。だから、最初の目標を定める所の現状の把握がちょっと甘いのではないかなと思って、詳しく見てみたら、現状の数値が平成22年の数値にしているんですけど、その結果が出てなくて、報告書には平成23年の結果しか出てない。で、平成22年の数値よりも

平成23年がガタッと落ちていて、例えば平成22年で40数%あったものが、目標が60%になっている。実際平成23年度の結果は23%ぐらいなのですね。ですから、そのうちの何が落ちているかって言うと、「～と思う市民の割合」が何%かってことなのですよ。それで提案ですけど、この予想を立てる時に指標の目的を、「数値目標を可能な限り設定する」と言っているんですけど、その時に現状の把握をもうちょっとしてもらいたいなと思います。

(会長)

ありがとうございます。今、3人の委員の方からお話がありましたけれど、何か事務局からコメントはありますか。

(事務局)

貴重な御意見をありがとうございます。お二人の方から御指摘いただきましたとおり、骨子案につきましてはある意味、具体性に欠ける部分があるというのは私どもも承知をしております。今回の骨子案につきましては、大まかな本市の方向性というものを示させていただき、それぞれの分野、こういった所に力を入れていくという所をお示しさせていただいたものです。この後、「素案」を作る段階では、施策についても検討を重ね、それを取りまとめたものを「原案」としてお示しする予定でございます。その中では、もう少し具体的な内容もお示しできるものと思います。3月に協議もさせていただきますし、5月についても協議をさせていただきますので、その中でまた御意見をいただければと思います。

また、委員から御指摘いただきました提案につきましては、私どもも問題として認識をしておりますので、これについては皆様の御意見を伺いながら改善できる所があれば取り入れさせていただきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。3人の委員の方、何かありますか。よろしいですか。

それでは、次の委員、お願いします。

(委員)

工業会の観点から言いますと、市民意見の中に「道路拡張・渋滞対策」が出されていると思うのですが、地元に工業会関係の事業所で、サービス業、大手のロジスティクスとか、この辺で見ますとコストコとかビバホームとかって、あの周辺の渋滞が非常に大変で、「200m走するのに30分かかってしまう」なんていうね、非常によく工業会の議会の際とか、挙がってくるのですよね。この話っていうのは今始まったことじゃなくて、もう結構前から事業者から言われていまして、今、時間の経過を見ていると、一部が拡張して道路が広がったりはしているんですけど、基本的にどのような場所、どういう所が必要なのかっていう、そういう調査も含めまして

一度検討していただければなと思います。これはやはり、座間市に事業所の誘致をする際に、結構大きなネックになっておりますので、是非、御検討の程をお願いしたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。それでは、次の委員、お願いします。

(委員)

私がちょっと今、疑問に思っていたのは、今までこの基本計画等を考えていった場合に「10年」が一つの計画の道であったのではないかなと思っていましたが、今回、これが「8年」というふうな形に切り替えて検討されるということになっている訳です。これをちょっと考えてみましたが、市長及び市議会議員の選挙の4年間の任期の2回過ぎたものであって、その関係で8年という数値が出てきたのかなと思いますが、そのような考えが何故この、今回取り上げられたのか、従来の10年という形ではいけないのかということが、ちょっと疑問に思っております。それらについて、もし御回答いただけるならば、教えていただければと思っております。

(会長)

ありがとうございます。道路の渋滞問題、計画期間の設定の御質問がありましたが、事務局から何かお答えはありますか。

(事務局)

まず、道路の渋滞につきましては、昨年実施しました地区別懇談会等でも、様々な方から御指摘をいただいております。最近物流施設の進出が本市におきましては増えておりまして、それについては有難いことですが、そうしますと当然その所で道路の渋滞が発生してしまうという状況です。私どもは、道路整備につきましてはできる限りのことは進めたいと考えておりますが、地権者の方との調整なども含めて可能な限り対応できる所から対応していきたいと考えております。

また、総合計画の計画期間が、第四次座間市総合計画は10年でしたが、今回は8年ということで進めさせていただいております。委員から御指摘いただいたとおり、基本的には市長及び市議会議員の選挙の期間というものを意識しております。選挙があつて、その後、一定の検討期間を設けて、そのサイクルでいきますと、1期が基本的に4年ですので、総合計画の計画期間を考えた時に、8年というところで一つの区切りになるだろうというところで、今回は8年という形に計画期間を改めさせていただいたものです。

(会長)

ありがとうございました。期間はもう「確定」みたいな感じでしょうか。

(事務局)

今の段階ではそのような形でお示しをさせていただいております。

(会長)

今後、議論の中で場合によっては、そういう意見があったということで、御検討いただくというような形で、2人の委員の方、よろしいでしょうか。

(委員)

すみません、ここで論議するとは思っておりませんが、従来の、私も議員の出身でありまして、今まで何回か、28年お世話になった中で、そのような計画というものはほとんど10単位でやっていた。そして、やはりすぐ取り組むことが、改選されたからといって入る問題じゃないのですね。ですから、4年単位・4年単位で、8年でできるということは、私は無理かなと思っておりましたので、そのような質問をさせていただきました。またこれからの審議会の中で取り上げていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(会長)

ありがとうございます。委員は、今の話に関連する御意見ですか。

(委員)

今の道路の渋滞に関するやりとりについてです。今、事務局からの説明に、ちょっと変だなと思ったのですね。「できる所から対応していく」って仰ったのですけれども、ということは、「できない所はやらない」ということになってしまう訳で、せっかくその10年先を見据えた話をしていこうという時に、できないことをどうやってできるようにするのかっていうのを議論するのがこの場ではないのかなと思うのですね。なのに、冒頭の説明で「できる所からやります、できない所はやりません」という話をされてしまうと、この会議の意味はどこにあるのかなと思ってしまいます。その辺はちょっと柔軟にというか、きちんと考えていただきたいなと思いました。

(会長)

そこも含めてですね、今後またディスカッションする機会もあるかと思っておりますので、審議会としてそういう意見があったということで、よろしいですか。

(副会長)

今、交通インフラと言いますか、道路の問題が色々出ている訳ですけれども、本当にこの道路の問題、交通の渋滞の問題っていうのは、この第五次座間市総合計画、この座間市だけで話し合っていて本当に良いものなのかなという気がしております。と申しますのは、座間市のちょうど真横

にあります所で、太平金属工業さんがありましたけど、そこに大きい物流倉庫を今作っている訳でございます。そういった中で、このエリアの中だけでの問題で解決するというのは非常に難しい話だと思います。そういった中で、せっかく第五次座間市総合計画というものを考える過程の中で、もう少し広範囲で色々なことの合意点とか頂戴できれば、もう少し全体のインフラ構造等を含めてですね、参考になるのかなと感じますのと、他の会議に出た時も言われたのですが、座間に工場色々あった中で、工場が今壊されて、これから新しいものが建つのですが、
「座間って空が広いよね」って言われたのですよね。本当に工場が無くなったことによって空が広く見えています。でもこれがまたしばらく経つと一気に今度倉庫ができて、また狭い空になってしまうのかなと。これは許可が下りた後の話ですから致し方ないことですが、そういったものも含めて、もう少し長期で色々なものを考えていただいた方がよろしいのではないかなと思いました。

(会長)

ありがとうございました。期間の話、あるいは、スタンスの問題ということだと思いますので、今後、そのあたりのことについても、総合的にディスカッションできればと思います。それでは、次の委員、お願いします。

(委員)

先ほども、市民の方から子育て支援に力を入れてもらいたいという意見があったとしても、具体的な話ではなくて抽象的だという御意見がありました。幼稚園にいて若いお母さんたちの話を聴いていると、例えば「隣の市では若者の定住のためにお金貰えるみたいよ」とか、「中学校の全員給食が始まるみたいよ」とか、「どこどこの市の方が医療費の無償化が進んでいるよ」とか、そういった声をよく聴きます。ですので、座間市が今後、この未来プランも含めて、そういった計画を立てていくのであればやはり具体的に、例えば他の市に住んでいるお母さんたちから「座間市はいいよね」って言われるような、具体的な支援策っていうのが出てきて盛り込まれれば、良いのかなと思っています。

また、保育所の整備についても多数御意見があると思うのですが、座間市内には九つの幼稚園があります。ですので、幼稚園として子育て支援をどういった形でできるのかも含めて、保育所と一緒に子育て支援の方もできれば良いと思っておりますので、そういったことも含めて御検討いただければと思っております。

(会長)

ありがとうございます。それでは、次の委員、お願いします。

(委員)

先ほど副会長からのお話にありましたけれども、この市の総合計画ででき得るかというか、収まりきれんかどうかというお話もございましたけれども、非常に重要な視点だなと思います。市の総合計画の認知度が低いという話もありましたけれども、市民の目から見れば「行政の総合計画」と映る訳ですけれども、実施主体としては国と県と市があって、それぞれの役割分担がある訳で、交通渋滞の解消ということについても、座間市だけででき得るものと、でき得ないものがある訳で、国や県がやるべきこともあると思うので、そういう所まで含めて分かりやすく見せていく必要があるのかな、それは総合計画に関心を持っていただくという意味でも必要なのかなと、行政の立場でつくづく感じました。

少し教えていただければと思いますが、基本計画は8年、実施計画は3年ですけど、これは毎年ローリングするという計画なのでしょうか。普通は、職員の方の御負担が相当大変なのかなあと思ったんですけど、よっぽどのことがない限りローリングしないとか、そういうこともあり得るのですか。

(会長)

ローリングの話について、事務局いかがですか。

(事務局)

座間市では実施計画を毎年、基本的に見直しをしております。というのは、実施計画をもとに、その後、次年度の予算をその方針に基づいて編成をするという一連のスタイルをとっておりますので、ローリングした結果前年と変わらないというのも当然ありますけれども、昨今の社会情勢が刻々と変化する中で、それについて即座に対応することも考えまして、変えるべき所は変えていくという形をとっておりますので、基本的に毎年実施計画を見直ししております。

(委員)

そうすると、数値目標は、基本構想にだけ入れるということですか。

(事務局)

実施計画自体は、それぞれの事業費ですとか、そういった割と具体的な数字が入りまして、いわゆる目標ですとかそういったものは、今仰るように、政策の所で基本構想の中に入れるつもりです。それは、先ほど期間については色々お考えがあるかと思いますが、本市としては8年後の目指す姿についての数値目標を持つという形をとっております。

(委員)

分かりました。あとちょっと細かいことを聴いて申し訳ないんですけど、公債費が減っている

のを見てすごくびっくりしたのですが、これは残高が減っているのでしょうか。

(事務局)

残高も減らすように、今努力をしております。といいますのは、今後は私ども、公共施設の再整備計画を進めていきまして、これから公共施設に係る事業費が増えていく予定ですので、その後年度負担を少しでも減らすということを念頭に置きながら予算編成には取り組んで参りましたので、その結果の一端と捉えております。

(委員)

分かりました、ありがとうございます。いくつか意見をさせていただければと思います。

「第3節 社会情勢への対応」の所で、6ページですが、「1 人口減少の進行」の柱の中に市民参加の結果などが入ってしまっていますが、これは、イオンでの取組ですとか、良い取組をやっているの、柱立てされた方が良いのではないかなと思いました。それと、11ページの「第4節 目指すまちの姿」で、これは第3節の社会情勢の変化を踏まえて第4節の目指すまちの姿というつくりになっているかと思しますので、このリードの所が、先程から総花的とちょっと御指摘もありましたけど、このリードが、要はどういう社会情勢の変化を受けてプライオリティ付けているのだよという説明が、今ちょっと薄いかなと思いますので、そこのプライオリティを付けると、皆様から言われていた、ちょっと総花的過ぎるよってというような、アンサーになるのかなと思いました。それと、その下の「“ひと”が輝く × “まち”が輝く × “未来へつなぐ”」は、「ひとが輝く」と「まちが輝く」この二つの柱立てがすごく上手いなと思ったのですが、政策の通し番号が、この「“ひと”が輝く」の中で、1、4、5で別のプライオリティのために振られているのですよね。これは多分12ページの資料から取って来られていると思うのですが、この「“ひと”が輝く × “まち”が輝く」という、前にネーミングが付けられているので、これの中での通し番号に変えた方が良いのかなという感じを受けました。そうすると、読んでいる人へのプライオリティが分かりやすいかなという感じがありました。

(会長)

ありがとうございます。先ほどの委員の御意見も含めて、何かコメントありますか。

(事務局)

私どもの説明にもありましたとおり、子育て支援については、本市としては、市民の方は大変関心を寄せていらっしゃると思います。今、委員から仰っていただいた所で、いろいろな提案もいただきましたので、その辺も含めて皆様と御審議をさせていただければと思っております。

(会長)

ほかの委員の御意見については何かありますか。

(事務局)

先ほど御質問いただいたものは、そのような回答ということにさせていただきました、あと、今御指摘いただいた所については、ごもっともだと思えるところもありますので、もう一回整理をさせていただいて、また素案を作成する段階で改めさせていただける所は改めさせていただきたいと思っております。

(会長)

素案の段階で少し組み替えがあるかもしれないということかと思えます。それでは次の委員、お願いします。

(委員)

土木事務所でございますけれども、都市基盤の分野でお話をしますと、所管施設の道路、河川、公園、急傾斜などの整備及び管理の方を担っている所でございます。そのような中で、今回「座間市内の」というお話ではございますけれども、今、様々な委員からもお話がありましたとおり、やはり、道路にしても、河川にしても、そのエリアの中で完結するものではございません。道は続いていますし、河川も海まで流れて行くという所で、やはり広域的な視点でという観点が入って初めて、この座間エリア内の計画がどうなのかというのを示す事が一番市民にも分かりやすいでしょうし、理解も得られるのかなと考えております。そういったことでいきますと、神奈川県も国とのパイプがございますので、今回、国の委員さんは入っておりませんが、少し広域的な視点での計画の中で整合が取れるのかどうか、少し御協力ができたらと考えております。

道路の渋滞の話がいくつかございましたけれども、例えば神奈川県は他の県と違っていて、高速道路ネットワークというものが非常に密にある県でございます。特徴があるのは、この高速道路ネットワークがジャンクションという形でつながっていると。首都高であっても、中日本の高速道路であっても、東日本の高速道路であっても、これが全てどこかで接続をしているというような特徴がございます。そういった所で神奈川県は道路施策としましては、高速道路ネットワークを充実させていこう、そして、この高速道路ネットワークを活用しようということで、インターチェンジを神奈川県内の都市計画区域の中からもどこでも5 km以内で高速道路に乗って行けるようにしようというような考え方で道路行政を進めております。そういった考えでいきますと、通過交通は、今までは高速道路が無いので市内の道路を走って行くという所もございましたが、ある程度、今、高速道路もだんだんと整備をされていく、それから昨年ではございますけれども、東名高速の綾瀬スマートICという所で、神奈川県で唯一この県央地区5 km圏内でICにアクセスできないという所が綾瀬市、それから座間市の一部

ということがございました。そういったものを早く短く高速道路のネットワークに乗せていこうというような施策も展開をしている所でございます。そういった意味で、市さんの道路につきましても、いかにこれと連携していくかっていうことが重要になっていきますので、こういった考え方で今後は参加をさせていただきながら、協力させていただければと考えております。

(会長)

ありがとうございます。今の御意見には何かコメントはありますか。

(事務局)

今御指摘いただきました広域的な視点というのは、まさにこの審議会を立ち上げた根拠の一つでもございます。どうしても私ども座間市だけでは解決しきれない所もございますので、そういった意見を是非、本審議会等でお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございます。それでは次の委員、お願いします。

(委員)

急にちょっと市民レベルの意見になってしまうのですが、私、息子が高校3年生で今、受験真っ直中ですが、息子の言葉で言うと、突っ込みどころ満載です。最初に「総合計画」っていう言葉、正直私、知りませんでした。初めて、小論文を書いた時点で「あ、総合計画ってことはこういう意味なんだ」ということを正直知りました。私以外にもやっぱそういうふう考えている方って、「総合計画」というと行政言葉みたいな感じになってしまうのですが、もっと市民に伝えるには言葉をかみ砕いて、要は「将来、座間市をあなただったらどういうふうな感じで住み良くして行きたいですか」というような質問の方法に変えると、もっと小学生からお年寄りまで意見が求められるのではないかと思います。

あと、骨子案の最後の12ページの政策3に「災害に強く」とってありましたけれど、私、座間二丁目に住んでいるのですが、私が住んでいる地域は相模川がもし氾濫した場合の浸水予想が3mです。新しい住宅も結構できている所ですが、いきなり3mっていう表示が去年の3月に近所の電柱に貼られて、「ええ？」って感じだったので、
「じゃあ一体高齢者が多い地域でどうやって逃げるの？逃げる場所はどこ？」西中学校とか座間小学校とか、昔の資料にも残っていますけど、浸水したり液状化が起こったりとかしています、昔。そこが今、避難所になっているのですが、もし実際に災害が起きた場合、避難所としては機能しないと思います。そういう場合どうやって逃げるのか、あと、高齢者が多い地域でどうやって高齢者を避難させるのかとか、そういう細かい点をもっとじっくり考えていくことが必要ではないかなと率直に思いました。

(会長)

今災害の話がありましたけれども、何かありますでしょうか。

(事務局)

今、御指摘いただいた点はですね、まさに市民の皆さんが感じていらっしゃる所でございます。私どもとしまして、災害について対策をとっていく訳ではございますが、まだ市民の方にお伝えしきれない部分もありますし、また、現実的に本当に3mの水かさが増した時に、全ての方にどうやっていただければ良いのかっていうのを、私どもとしてもまだ整理できてない部分もあるかと思っておりますので、それについてはまた担当部署も含めてですね、検討させていただきながら、より良い形で皆様にお伝えできるようにしていきたいと思っております。

(会長)

よろしいですか。それでは次の委員、お願いします。

(委員)

今日初めてこういう会議になったので、もしかすると思いつきでしゃべるだけになってしまうのかなと、前の資料と、今回新しく構想が出て、それについて話になっちゃうと、この場で考えたことをポンと言うだけになるような気が多少しましたので、できましたら、事前にこういう書類は出していただける努力をしていただきたいなというように思います。

それと、総合計画については先程から皆さんから出ているように、やっぱり「総合計画」という言葉を座間市民はほとんど知らないのではないかなと思います。やはり、普段の市政の中で、どれだけこの総合計画について具現化したものを、皆さんに、市民に発表することが必要なのかなと思います。今ここで第5節、12ページに、もしかするとパブリックコメントを求めるような話になったらどうやって聴くのかなと思ったのですが、この文章で、この7項目でパブリックコメントを出そうとすると、なかなか難しいなど。私もしょっちゅうパブリックコメントを気にしているのですが、例えば、カーボンニュートラルの話はどこに入っちゃうのかなと、前の節ではカーボンニュートラルが盛んに書かれているけれども、ここの所では、核としては環境になるのかなとか、災害と一緒に良いのかなとかいうこともちょっと気になりました。

それと、もう一つは、地域の「ひと・まちが輝き 未来へつなぐ」ということの中に、コミュニケーションの悪さっていうことが、だいぶ地域では出ているのではないかなと。地域のコミュニケーションをつなげるためにどうするのっていうと、はっきり言って、自治会総連合会の会長さんもいらっしゃいますけど、加入率が50%切るなんて言っている段階で、「コミュニケーションがどういうふうにとれるの？」っていう、これ非常に大きな問題だろうと思います。市が先ほどの総合計画を伝えるにしても、やっぱり自治会とかそういう所が積極的に一緒に参画しなければいけない訳ですけども、そういう意味では、行政が自治会の加入をどのようにして上げていく

のか、ただチラシを配る、言葉で言うだけでは、一つも加入率のアップにはならないのではないかなど。その加入率アップにならないこと自体が、今度は防災訓練をやっても人が集まらないという話になって、防災にも影響してくるということだと思いますので、この、地域の「ひと・まちが輝き」の中に、地域の活性化をどのように入れていくかということを具体的にこれから提言していきたいな、と思っています。

(会長)

資料の事前配付については、今後そのような形でお願いしたいということです。あとは、政策の内容、それから地域の活性化について御質問がありましたけれども、それについては何かありますか。

(事務局)

改めまして、書類の事前配布については、なるべく早くお渡しするように改善させていただきたいと思います。申し訳ございません。

今御指摘いただきました、総合計画を知らないという所は、私どもも先日来の取組で痛感している所でございます。これにつきましては、分かりやすい情報発信という所が必要なのかなと思っております。コミュニケーションにつきましては、市議会等でも取り上げていただいております。即効的な対策というのはなかなか見出せていない現状ではございますが、地域の皆さんと一緒に考えていながら、総合計画の浸透についても一緒にお知恵をいただきたいと思っております。

(会長)

色々お知恵をいただきたいというような回答でしたけれども、よろしいですか。今後、ディスカッションしていきましようということですね。ありがとうございます。それでは次の委員、お願いいたします。

(委員)

50年間座間に住んで、中学生ぐらいから住んでいて、なかなか良いまちではあるなと思っはいたのですけれども、座間日産が撤退してから、工場というよりも、今は「倉庫座間」になりつつあるのかなと、ちょっと様変わりしているのかなと。これが市の求めている話から倉庫関係が広がったのか、ちょっと私もよく分かってはいないのですけれども、なかなかちょっと違う景色になっているなあと思いながら、ちょっと考えています。

先ほど、今回いただいた「ざま未来プラン」というタイトル、これ私すごく良いなと思っはいるのですね。「総合計画」なんていう言葉なんか、ほとんど端に小さくしておいて、「ざま未来プラン みんなはどういう未来を描くのですか」とかですね、そういう、もっと求められる、答え

られるような、答えたいようなタイトル、要するに、製品でもキャッチコピーを挙げると、それに対して「あ、手に取ってものを買いたい」とか、キャッチコピーっていうのはすごく大切なフレーズになっています。ですから、そこら辺は市の方だけじゃなくて、むしろこの年齢層は、逆に言うと私もそうですが、年寄り連中なので、そういう人たちがキャッチコピーを考えてもあれるので、是非そういう所を考えていただいて、更に回答しやすくなるような雰囲気作りがすごく良いかなと。まず「ざま未来プラン」は素晴らしいと思いました。

あと1点、やっぱり先ほどから出ているのですが、SDGs、これ非常に重要ですけども、やっぱり総花にはしてはいけないと思います。座間市は、特に、これは全部やるのだけど、「座間市はこれをやりたいです」「これをやります」「これを8年後にやるんだ」という、何か強みをアピールした方が良いと思います。

それからもう一つ、先ほど渋滞とか色々あったのですが、子育てとかいう話もあるので、数値化目標がすごく重要だと思います。ですから渋滞であれば、「8年後には5km以上の渋滞は避けるようにしましょう」という目標にする。それは達成できるかどうかは別です。子育て世代だったら「待機児童を8年後には0にします」とか。数値化した目標を8年後のゴールにする。そういうのを一つ是非考えていきたい。「具現化した数値目標達成のために市民の方も協力してね。」それでも良いと思います。「ごみを無くしましょう」ではなく「ごみを分別し燃やすごみを何%削減しましょう。」そういう数値目標でも良いと思います。数値目標をすると、市民の一人一人の意識も変わるのかなあと思っています。

座間市としての「思い」を「思いを数値化し具現化する」ということが大切かなと思っています。もし分からなければ、住民の方に「数値目標をどうしましょう？」という問いかけでも良いと思います。そうすると市民の方から「俺10%」って言うかもしれないし、「俺は待機児童0で」って言うかもしれないし、「学費0にしろ」とか言う形の話もあるかもしれません。とにかく、そういう具現化した目標値に対して問いかけても良いと思います。上から押しつけじゃなくて、分からない所は聞いちゃうという姿勢でも私は構わないのかなと、まあそれが計画上の話ではタブーですって言うのだったらちょっと別ですけども。具現化した目標値を設定する過程を市民と市でコミュニケーションが取れるような仕組みを提示して住民の方に参加していただくという姿勢にすれば、「ざま未来プラン」の活動がもっと活性化するのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。目標を明確に数値化しつつ、市民ともそういうコミュニケーションを取っていくようなことではどうかという御意見だったと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

目標の数値化につきまして御提言をいただきまして、まさにそのとおりだなと。市長も常々申し上げているのですが、総合計画は行政だけで作るものではないので、その中で

市民の方と協議をさせていただきながら、ともに数値目標をつくらせていただいで、お互い、市民の方も行政もそれを目指していくということになりますと、今御指摘いただいたように市民の意識も変わっていくのではないかと思いますので、そういった数値目標が設定できるように皆さん御協力いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(会長)

よろしいですか、ありがとうございます。それでは、次の委員、お願いいたします。

(委員)

まず、私も総合計画ってちょっと分からなかった、知らなかったのですが、ただ、これが義務化から外れたのにもかかわらず引き続きやる、やりましょうっていうことは素晴らしいと思いますし、それを策定するに当たって、市民に色々な形でのヒアリングをされたことは、とても私は良いことだと思います。

やはり、ちょっと抽象的かもしれない、いや実は抽象的では決してないのですが、ちょっと抽象的に聞こえちゃうかもしれないけど、私やっぱりイメージってとっても大切だと思うのですね。今ここに、色々なアンケートとかの結果の中で、「ひとが輝き、まちが輝き」この言葉、先ほど委員からもお話があったように、とても良い言葉じゃないかなと思っています。ただ、これが「目指す姿」ってなると、何かとても押し並べてという感じに読めてしまう。これこそ、印象に残らないのですね、さっきの委員の話ではないですけど。やっぱり、全員が何かぼんやりで良いのですけど、「座間ってこんなまち」って、だからその、お母さんが隣の市の人とお話した時に、「座間、こうなんだけどさ、でも、こうなのよ！」みたいな、そういう何か。やっぱり、もともと東京とかの、単純にベッドタウンだったと思うのです、高度成長時代。でも今はやっぱり若い人たちっていうのは、子育てにもものすごく熱心ですし、遊びに行く時も「グループで」みたいな感じで、だいぶ価値観が色々変わってきています。昼間も、今コロナ絡みでオンラインで仕事されている方も色々いらっしゃるので、平日は谷戸山公園に行っても結構お父さんが子どもと遊んでいたりします。なので、本当に社会が変わってきています。そういう中で、やっぱりそういう一人一人が「私は座間市民で、座間はこんなに良い所があって、だからずっと住んでいきたいと思っているんだ」って思えるような共通のイメージが、何かこの今ここに書いてある「目指す姿 第4節」っていう、もうちょっとこう、「だからこういうことなんだよね」っていう、だから、そういうことを一人一人市民の人たちが「何のために今これをやっているのか」っていうことが納得されていけば、「自分たちが参加している、だったらもっとこうしよう」っていうことになっていくと思うので、ちょっと抽象的かもしれないですけど、なんかそここのところの「座間」っていう、この都会だけど田舎みたいなこのまちをどういうふうに、どういうイメージのまちに、どういうふうに誇れるまちにしていくかということの論議がとても大切かなと思っています。それは、結構アンケートの中でも色々出てきていると思うので、更に進めていって、細かいこと、

具体的な細かいことも並行に、やっぱりそういうことも詰めていきながらっていうことがよろしいのではないかしらと思ったりもします。

(会長)

ありがとうございました。細かい課題を色々考えつつ、市民が共通の価値観を持てるような何かそういった基盤になれば良いのではないかというような御意見ですね。何かコメントはありますか。

(事務局)

今の御指摘いただいた中で、価値観が非常に変わっているというのは私どもも非常に感じております。価値観が変わっていますし、また多様化している状況だと思います。そういった中で、今委員が仰った、皆さん全員が一致するっていうのはなかなか難しいと思いますけれども、多くの方が「あ、こんなイメージだな」というものを共有できることが、この多様化する価値観の社会において必要だなというのは御指摘いただいたとおりだと思います。そういった所で、「目指すまちの姿」だけで全て皆さん共有できるとは考えておりませんので、総合計画全体が、一つのイメージとして市民の方に共有してもらえるようになればよろしいかなと思いますので、それについてはまた皆さんから色々な御意見をいただきたいと思っております。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございました。各委員の方から色々な御意見があったと思いますけれども、私からも最後に一つコメントさせていただければと思います。

私の場合は座間市民ではありませんので、地域の事情にはそれ程詳しい訳ではございませんが、今、お話を聴いている中で、いくつかやっぱり論点があったのではないかなと思っています。

最初に、他の自治体の総合計画との比較という部分で少しお話をさせていただきますと、何となくこう政策が抽象的ではないのかっていうようなお話がございましたけれども、例えばそういった中では、他市ではいわゆる「戦略プラン」みたいなものを、たくさんある政策の中で重点的にやるというか、いわば目玉的に見せるというか、そういったような手法も他市ではやっている所もございますので、そういったことも御検討いただいても良いのかなと感じました。

それから、これは神奈川県内の自治体にある程度共通する部分かもしれませんが、広域的な視点に立った政策というお話がありました。隣の自治体と、経済圏や生活圏が一緒であるというような特性もございますので、そういう意味では住民、住んでいる人を第一にしつつ、関係人口や交流人口も念頭に入れた計画策定も検討されてはどうかと思います。特にその、座間市の場合は大型ショッピングセンターとかも結構あって、ほかの市からも結構お客様も来るとかそういったような特性があるとは思っていますので、座間に住んでいる人をメイン顧客としつつ、そういった市外からの来訪者をも、関係人口、交流人口として行政の顧客と考えるという、少し広めの捉

え方というか、そういった視点も場合によってはあっても良いのかなと感じました。

あともう1点、総合計画の認知度があまり高くないのではないかと、低いのではないかとというようなことについては、ネーミングの問題ですとか、あるいはこれからのPRの方法とかもあるかとは思いますが、やはり他の自治体等で拝見していると、策定過程にいかにも市民を参加させるかということによって、みんなで作ったという共感を生みます。そういったものを市民の多くの方が体験できるプロセスがあれば、それがゆくゆく市民共通の価値観に進展すると考えます。そういった、より市民が参加するような策定方法なども今後、検討されてはどうかと、ちょっと皆さんの御意見をお聴きして感じた所でございます。

私からはその3点ですね、目玉事業を考えようというのと、少し広めにエリアとか住民を捉えてはどうか、それから、策定過程への市民参画をより積極的に行われてはどうかというような、皆さんの御意見をまとめたような形になるのかもしれませんが、感じた次第でございます。

一通り皆さんから御意見をいただいた所でございますけれども、総括的に何か、皆さんから御発言、もしあれば、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

では、お願いします。

(委員)

一つだけちょっと、事務局にお聞きしたいのですが、まちづくりの方向性という12ページですけれども、その中に、政策の6までは「まちづくり」という言葉になっています。7番だけが「行財政運営」という言葉になっているのですが、私から見ると、これが総合計画であれば、この行財政運営というのは入れない方が良いのかなと。市政の運営指針としてはあっても良いけど、行財政、総合計画の所にこれをやっても、これは「市がどういうふうにお金を使うよ、健全に使っているよ」って答えになるだけで、住民が、まあそれは関心を持たなきゃいけないけど、それ程ここに入れなきゃいけないという項目ではないのではないかなあと、こういうものを入れない方が、住民に近い感じになるのかなということで、ちょっと感じたものですから申し上げたい。

(会長)

今の御意見、いかがでしょうか。

(事務局)

御指摘はごもっともだと思います。本市として今考えておりますのは、1から6までにつきましてはそれぞれ政策がございまして、それぞれの方向性を示しておりますけれども、それには行政の仕組みですとか、財政的なもの、そういったものが伴わなければ実現出来ないということで、行財政運営を政策として外すというのも当然一案かと思っておりますけれども、私どもとしては、そこは密接不可分なものと考えておりまして、行財政運営は1から6までを支える大きな政策の一つ

と現段階では捉えておりますので、そういったことで、こちらは政策の一つとして載せさせていただいております。

(会長)

よろしいですか。これは多分、見せ方の部分もあると思うのですよね。市民のための1から6の政策をするために、条件というか基盤というか基礎というか、そして、こういうことを効率化していきますとか、そういったようなものになるのかもしれませんが。これも継続的な、ちょっと検討課題かも知れませんね。

その他何か、お願いします。

(委員)

私も今、委員が仰った12ページですけど、SDGsに無理矢理こじつけている感じがします。それで、ちょうどこれが今回の第五次総合計画の目標、ゴールが、SDGsのゴールと同じ年なのですよね。そうすると、知識を持った人たちからSDGsと総合計画とを一緒に考えられてしまうと、座間市はすごいことやっているのだなという考えになるのです。例えば、政策の3にSDGsの目標の14番「海をきれいに」が入っているので、「環境負荷の少ないまちにしましょう」って言っているのに、「なんでここ“陸”が入ってないの？“陸”が入っているのは6番、政策の6番に陸のことが入って来ている」とかあって、それをきちっと区分けしてあげないとならないと思います。SDGsには17の目標と169のターゲットがあるじゃないですか、そのターゲットの中には実施手段と指標が入っていて、実施手段も一緒に考えてやらないと墓穴を掘っちゃう感じするのですよね。ここの所、載つけるのはもうちょっと考えてもらった方が良いかなあ、という感じがします。

(会長)

今後の検討課題ということでよろしいですね。

(委員)

はい。

(会長)

その他、だんだん時間も無くなって参りましたけれども。副会長、お願いします。

(副会長)

二つほど意見をとって、質問かもしれませんが、まず、第五次座間市総合計画のサブプランの「ざま未来プラン」、この未来プランの「未来」っていうのは非常に疑問を感じて、さっきか

らずっと見ていました。8年後というのは未来なのですかね、実際問題。あまりにも短すぎる期間の中で、未来とかなれば、生まれた子どもたちがある程度の年齢になったり、それこそお年寄りになったりとか、もう少し長いスパンで物事を考えるべきで、たまたまSDGsの終わりと一緒に合せてだけで、ましてや先ほど委員からもお話があったように、過去10年間の計画であったものを8年にして、それが「未来」という表現を使ってここに提示して良いものだろうか、ということにまず疑問を感じながらずっと読ませていただいていた。

あと、先ほど自分で言っただけであれだったのですが、広域化であるとか色々な物事の判断の中で、まあ、道は確かに座間市内で完結する訳ではありませんし、ほかの市とくっついて、そこに終わりが無い、5km圏内の、色々なことをお話いただいて本当に勉強にもなりましたし、ありがたいのですが、今あの私たまたま商工会の会長と同時に、観光協会の会長というのをやらせていただいています。座間っていうのは主要な観光資源が無いのですが、観光協会っていうのはちゃんとあるってことでございまして、それをどうしようこうしようっていう話の中で、商工会の会長として知事とお会いするお話しの方があった時に色々御相談したのですが、相模川を中心にして北は相模原から下は茅ヶ崎・平塚まで、そういう一貫した形の中で、広域で観光を考えたらどうだろうかという話を今、知事なんかとしています。まあ、県の観光の部署もそうですし、横浜コンベンション、県の観光協会もそうですけども、色々な中で座間っていう何も無いように見える中で、拾っていけば拾えるものがある中で、こういった形で総合計画の中で、無理矢理色々なものを探していただいている訳ですから、こういったものの中で私らもまだ分からない部分が多々あるかと思えます。私もまだ、座間に来て30年になるくらいの年月しかありません。そういった中のものを非常に参考にさせていただきながらやるということの中で、委員は確かにあるのですが、委員は委員として結構なのですが、それ以外にやはり、もう少し若い方であるとか、色々な意見を持てるような方、先ほど、高校生のお子さんの話とか出たりしましたが、中学生でも良いでしょうし、小学生でも良いでしょうし、そういった方々の話を聴く場っていうのも並行して、彼らにとって「本当に未来っていうのは8年後かよ」とかっていうようなこと、きっと言うと思います。そういった中でやっぱり色々なことを考えていくっていう、私は、8年単位はやめた方が良くかなと感じました。

(会長)

ネーミングの問題とか、広域観光の問題とか、策定への若い人の意見をどうするかといった話がありましたけれども、事務局から何かありますか。

(事務局)

まず、期間につきましては、8年というのをそんなに未来ではないとお感じなる方も当然いらっしゃると思います。私どもとしましては、先ほどもちょっと触れさせていただきましたけれども、本市を取り巻く環境が刻々と変化する中においてのこの8年というのは、決して短くはない

かなと思っております。そういった環境の変化にも対応しながらですね、8年後の、敢えて「未来」と申し上げさせていただきますけれども、描くということが、今私どもが考えている所でございます。

観光につきましては、先ほど仰っていただいた広域という所は、私どもも持たなきゃいけない視点だと思います。そしてこの審議委員には神奈川県の方にも御参加いただいておりますので、そういった視点で、是非、御指摘をいただきたいと思っております。

また、若い方の御意見をいただくというところにつきましては、私どもも何とかそういった機会を設けられないかと考えておりました、こういった貴重な御意見をいただいておりますので、そういった機会もどうやって取り入れていくかを考えていきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。いずれも今後検討ということですが、では、あとお一人ということで、よろしいですか。

(委員)

一つだけです。子どもたちの意見をどうやって収集するかという話ですけども、一つには教育委員長の御参加というか、賛同も必要ですけど、学校ですね、学校の授業、道徳でも何でもいい、何かのジャンルで、例えば「座間市の未来を語ろう」とか、何かそういうのを1時間設けるとか、それで、小さい子には絵を描いてもらうとか、何かして貰えれば、それも子どもたちの主張を集めるものになるのかなと思っておりますので、そういうのも、どうしろというのではなくて、イメージを描いてもらう、それでも良いのかなと、それは教育委員長も含めてなんですけども、是非そういうのも提案してみたら良いのではないかなと思いました。

(会長)

策定プロセスの中でそういったものも御検討いただければというような御意見があったということでもよろしいでしょうか。

予定されていた時間がだんだん迫って参りました。議題について、本日の審議についてはこのくらいにさせていただければと思います。御協力ありがとうございました。

それでは、進行を事務局に返したいと思っております。